

令和5年度 第2回 見附市まちづくり総合会議 議事概要

I. 開催日時 令和6年1月29日（月）午後2時00分～午後3時30分

II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室

III. 出席委員 渡邊 誠介委員、坂田 政元委員、三藤 良行委員、徳橋 功委員、
高木 信行委員、星野 明子委員、日山 健一委員、重信 元子委員、
田中 智恵利委員、高野 直史委員、原 壽美子委員、佐藤 美千代委員、
藤 弘美委員、（計13名）

IV. 会議の概要

1. 開会

2. 市長挨拶

日頃より、見附市のまちづくりに多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。

まず、この場をお借りして、元旦に発生した「能登半島地震」で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。見附市としては、能登半島の被災地への救急隊員や応援職員の派遣に加え、支援物資やトイレトレーラーの派遣などの支援活動を行っている。一日も早い復旧に向けた支援を継続するとともに、いつ起きるかわからない災害への備えをしっかりと取り組んでいきたい。

この度のまちづくり総合会議では、最新の人口集計における人口ビジョンの達成状況と、健幸づくり推進計画の計画期間が今年度末であることから次期健幸づくり計画の素案について、ご説明させていただく。なお、委員の皆様の任期は今年度末で終了のため、この委員のメンバーでは今回の会議が最後になる。これまで第5次見附市総合計画に描くまちづくりを進めるため、お忙しい中、様々な視点や知見からご意見いただいたことに感謝を申し上げますとともに、最後まで活発にご議論いただくようお願い申し上げます。

3. 会長挨拶

元旦に発生した「能登半島地震」で被災された皆様にお見舞いを申し上げ、被災地の復興が着実に進んでいくことを願う。

本会議は、見附市の政策の進捗状況をしっかり見て、今後の市の歩みを共有する場となる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

4. 委員紹介

【事務局】

委員名簿の配付および事務局の説明により省略。事務局から欠席委員を報告。

5. 会議の成立

【事務局】

出欠報告委員の過半数が出席していることから、見附市まちづくり総合会議設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

6. 議事

(設置要綱第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ)

(1) 第5次見附市総合計画(人口ビジョン)の達成状況について

【事務局】

(資料1) について説明

【重信委員】

令和5年度の社人研推計の改善傾向について、全国的に外国人の流入も含まれるとの説明があった。見附市分の推計においても外国人の人数が含まれている理解で良いか。

【事務局】

令和5年度の推計において、外国人は202人含まれている。

【坂田委員】

外国人の流入に関して、転入数と転出数はいかがか。

【事務局】

転入が68人、転出が67人であり、差し引いて1人の増加となった。

【渡邊会長】

合計特殊出生率の推移について、(1) H27年度が1.5と突出して高く、(2) H30年度が1.32と目立って低下している。それぞれ要因をどのように考えているか。

【事務局】

(1) H27年度は市内で大規模な宅地造成が完了し、その購入者など若い世代が流入したものと考えられる。(2) H30年度については現在、明確な答えを持ち合わせていない。

(2) 第2期見附市総合戦略のKPI見直しについて

【事務局】

(資料2) について説明

【三藤委員】

項目番号 40 の企業立地に関して、立地の需要が急激に増えてきた場合に、都市計画における線引きの随時見直し等の対応はできるか。また、対応ができないという場合に、線引きによらない開発は可能となるか。

【事務局】

当市は長岡都市計画区域に含まれており、長岡都市計画での線引きが基本である。仮に、急激な社会情勢の変化等により個別の対応が必要となった場合についても、様々な法令がありそれをクリアすることが求められる。

【三藤委員】

項目番号 65 の浸水対策に関して、貝喰川右岸排水区の雨水渠の整備とあるが、遺跡が発見されて県事業である放水路・調整池の整備工事が難航していると聞いた。市の対応状況はいかがか。

【事務局】

当該整備工事は重要なものであり、その進捗については市から県に要望しており、その重要性は県にも認識されている。工事をできるだけ早く進めてもらえるよう、引き続き県に要望していく。

【三藤委員】

項目番号 87 の道路整備に関連して、貝喰川沿いに西へ向かって親水型、都市型、田園型と 3 つの遊歩道が整備されている。利用や整備の状況はどうなっているか。

【事務局】

遊歩道の一部は、パティオにいがたを起点・終点とした今町の健幸ウォーキングロードのコースとなっている。歩行者向けの誘導看板等は整備済みと認識している。

【重信委員】

項目番号 111 の子育て世代への医療費助成について、「経済的負担の軽減を図り、安心して出産を迎えられるようにします」とある。他方で、KPI を「市民アンケート『子育て世帯への経済的な支援』満足度」に変更するとの説明があったが、これは出産を迎える前の市民の満足度も計測できる理解で良いか。

【事務局】

変更後の KPI は出産前後の市民の満足度を計測するものと認識している。従来の KPI である医療費助成の件数については、件数が増えても自己負担が合わせて増えるため、指標として適切かどうか疑義が生じた。その中で、市民からの「満足している」「不満がある」といった満足度を指標としたほうが、アウトプット指標（結果指標）よりもアウトカム指標（成果指標）という観点からも、KPI の設定により適しているという結論に至った。

【重信委員】

引き続き項目番号 111 について、当該の市民アンケートは 1,000 人を対象に実施したと説明があった。R4 年度実績値の 61.9%は、どのくらいの回答者数になるか。

【事務局】

市民 1,000 人に宛てて送付し、498 人から回答があった。このうち 15.9%が「満足」、46.0%が「やや満足」として、合計 61.9%となった。また、子どもの保護者にあたる市民の回答をピックアップすると、25.5%が「満足」、49.0%が「やや満足」の合計 74.5%となっている。支援が行き届いているか、全世帯からの視点と子どものいる世帯からの視点、それぞれの視点で捉えて、今後の政策に反映していく。

(3) 健幸づくり計画の策定について

【事務局】

(資料 3、3-1、3-2、3-3) について説明

【田中委員】

資料 3-1 の指標「適正体重を維持している人の割合」を見ると、R4 年度は「D」の評価が多い。今後のアプローチをどう考えているか。

【事務局】

適正体重については、特に数値が悪くなった指標であり、すぐに改善できる特効薬のようなものはないと認識している。例えば学校においては、体を動かす機会を増やす、健康診断の結果をもとに養護教諭が指導する、とったアプローチをしてもらっている。また、健康診断後の保健指導については、コロナ禍の影響で保健師が訪問できず、停滞してしまった部分があった。特にハイリスクと判断される層には健康づくりやメタボ対策の大切さを伝える、といった地道なアプローチをしながら、今後も数値の改善を図っていきたいと考えている。

【田中委員】

資料 3-2 の (5) 健幸教育・啓発の分野に関する目標設定では、「健幸フェスタ来場者数」を指標とするといった説明があった。教育・啓発といった分野であれば、学校でのアプローチや、子どもの運動・スポーツが総合型地域スポーツクラブに代わってきていることについて触れても良いように思った。

【三藤委員】

資料 3-2 の (2) 運動・スポーツ分野に関連して、スポーツ協会などと連携した取組みや期待される効果、経済的な補助など、あれば教えて教えてほしい。

【事務局】

学校教育課の「スペシャリスト派遣事業」において、スポーツ協会などから学校に指導者を派遣し、専門的な指導と合わせてスポーツの楽しさを子ども達に伝えるような取組みをしていると聞いた。今後もスポーツ協会と連携した取組みは続くように思っているが、経済的な補助などの支援の予定までは把握できていない。

【坂田委員】

資料3の(4)施策の推進体制において(A)関係機関との連携、(B)ICTの積極的な活用を掲げているが、現在において関連する取組みはあるか。

【事務局】

(A) 現在でも医療機関や保健所などと連携して取り組んでいる。市は国民健康保険の保険者であることから、保健指導等は国保加入者を中心に取り組んでいるが、現在は市民の国保加入が減少傾向にあることから、今後は他の機関との連携を強化することによって、より多くの市民の健康に繋がることを期待している。例えば、スポーツ協会や民間の運動施設の情報も合わせて情報発信をする、民間の運動施設の利用においても健幸ポイント付与するなど、より広く市民の健康づくりを支援していきたい。(B) ICT活用に関しては、スマホを通じた情報発信や健診のネット予約など、若年層も参加や受診がしやすいような仕組みを取り入れている。現在はまだネット活用という形かもしれないが、今後取組みを広げていきたいと考えている。

【日山委員】

資料3-2の(3)生きがい・心の健康分野「イ 心の健康」に関して、最近は学校や職場においてもメンタルに関する問題が多くなっているように思う。市としての現在の活動や今後の展望について教えてほしい。

【事務局】

心の健康について、市としても重要な課題があると認識している。コロナ禍の影響により令和2年に自殺者数が増加し、特に40歳代以下である若年層の増加が見られた。健康福祉課では「ゲートキーパー養成講座」を実施しているが、事業者を通じて働く若年層にアプローチすることも必要と考えている。また、小中高校生の自殺の増加については、国からも「SOSの出し方教育」といった方針を出しており、学校現場での取組みを強化していくものと考えている。

【徳橋委員】

最近の高校生の中では、知り合ってまだ1年も経たない友人に「死にたい」と伝えることがあると聞いている。周囲への意思表示の仕方も含めて、子ども達を巡る環境が以前より変わってきたように思う。私達が想像している以上に、学校現場での取組みは大切なのかもしれないと感じた。

【渡邊会長】

資料3-2の(3)生きがい・心の健康分野「ア 生きがい」について、指標を「生きがいを持っている人の割合」と設定しているが、どうやって計測するのか。

【事務局】

当該の指標は、従来の健幸づくり推進計画のもとで実施している「健幸アンケート」において、これまでに2年に一度調査しているもの。設問はずばり「生きがいを持っていますか」として、「はい」か「いいえ」で答えてもらっている。

【渡邊会長】

議題(1)、(2)、(3)について、事務局説明のとおり承認することとしてよいか。

《異議なし》

異議なしと認め、議題議題(1)、(2)、(3)について、事務局説明のとおり承認することとする。

7. 報告

(1)見附市 SDGs 未来都市計画の実績報告

【事務局】

(資料4)について説明

《質問なし》

8. 閉会

【事務局】

今年度の会議は今回が最後であり、委員の任期は今年度末で終了となる。本会議は次年度も継続予定。詳細が決まり次第、事務局からお知らせする。

以上